

令和2年度 さいたま市立太田小学校 学校関係者評価書

さいたま市立太田小学校

学校関係者評価委員長 田中隆介 印

1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数

8名

(2) 実施回数

2回

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- 今年度は、令和2年3月2日に発令された新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の影響で全国の小中学校が休校となり、入学式の縮小・変更が始まり、本格導入前であった家庭でのオンライン授業の緊急対応など、多くの問題を抱えながらのスタートではあった。しかし、学校長を中心に各教職員の皆様の努力により一斉休校という未曾有の事態を乗り切っていただいた。
- 保護者にとっても、各家庭内で体験したことのない環境下で子供たちの教育の遅れを最小限に抑える努力をしたが、今回の事態を乗り切ってみて、今まで以上に学校生活の大切さを感じ取った一年となったのではないか。
- この状況下で、学校が再開され3ヵ月弱の授業の遅れを取り戻しつつ、年度当初に設定された学校教育目標の達成に向けて、各種課題に取り組まれることは非常に大変だと考える。しかし、「令和2年度太田小学校学校評価アンケート」では、全18項目の内17項目の肯定的な割合が昨年度を上回っていることは非常に評価できる。
- アンケート結果で、唯一肯定的な割合が昨年度を下回っている、「お子さんは、進んで体を動かしている」という項目に関しては、これまでも学校サイドも問題意識を共有しており、継続して来年度以降も取り組まれることと考えるが、やはり各家庭内においても、インターネット動画やゲーム等の誘惑は数多く存在するため、下校後や休日の各家庭での過ごし方を踏まえて、保護者とも問題意識を共有し取り組んでいっていただきたい。
- アンケートの有効回答数が昨年度に比べて減少していることが気がかりだ。結果の妥当性を高めるためにも、有効回答数を増やすよう努めるべきではないか。
- 本年3月に、東日本大震災発生から10年が経過することになる。風化することが怖い。また、今年度は新型コロナウイルス感染防止対策に尽力する1年になったが、大人も子供もそこから学んだ経験や教訓がある。これらを生かしながら、今だからできる教育に尽力することが大切である。
- 一人一台のタブレット端末配備など、GIGAスクール構想を推進すると聞いているが、各家庭における受け止め方によって、子供たちの取組に差が生じる恐れがある。それを防ぐことが重要であると考えているが、どのようなスケジュールなのか教えてほしい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- 「令和2年度太田小学校学校評価アンケート」において、全18項目の内17項目の肯定的な割合が昨年度を上回っていることについて評価していただいた。しかし、新型コロナウイルス感染防止に伴う通常の教育活動が展開できなかったことが影響しているのか、アンケートの有効回答数が昨年度より減少しているため、来年度については学校だよりや学校ホームページ等を活用し、積極的に回答の協力について周知を図り、結果の妥当性を高める。
- GIGAスクールについては、一人一台のタブレット端末を配付する当初が肝心であると認識している。学校としては、教育委員会からの情報等に加え、学校においても管理職やエバンジェリストを中心に、情報教育部会等の活性化を図り、本校児童が新たな学びを実感、体感できるよう尽力する。

さいたま市立太田小学校長 千明勉 印